

③再任用を希望する場合、その窓口と手続き方法は、④まちづくりへの町民参加をサポートするため、これまでの経験を生かす再任用は考えられないか。

高薄町長

①再任用された職員はいない。

②管内においては19市町村中8町村が定年退職者を採用しているが、若者の定住促進や職員の年齢構成を考えると、なかなか踏み切れない。

③窓口は総務課であり、取扱要綱を制定して手続きすることになる。

④管理職だった人が部下になることへの心理的な負担と、定年後も引き続き役場に勤めることに対する住民感情を考慮しなければならぬ。

議会報告会のシヨック

北村光明 議員
先般、「議会報告会と

町民との意見交換会」を開催したが、清水地区は職員を除いた一般町民の参加者はわずか1名であった。

まちづくりの基本条例に基づく住民参加も少ない状況は、「二元代表制」の町政全般が問われており、主権者である町民が主体の町政となっていないことを意味する。「何も変わらない」と見放されたのかとの思いもある。

住民参加が少ない原因はどこにあるのか。

高薄町長

時代が変わったからなのか、昔は忙しくても出てきてくれた。情報は簡単に得られるし、何かあれば直接言えるということなのか、選挙の投票率の低さにも表れている。

テーマを絞った方がいいのか、参加者を年代別に区切った方がいいのか、時間帯はいつがいいのか、参加者が少ない原因を取り除いて工夫しなければならぬ。



参加者が極めて少なかった清水会場での議会報告会。(5月26日)

清水町におけるシテイ・プロモーション

北村光明 議員

人口減少化社会の到来、

地方創生の時代に、「魅力ある清水町」の実現のため、観光資源再生や地場産品販売といった個別的な取り組みだけではなく、地域のブランド化と成果の検証が必要。それらを統合・総合的にとらえた「シテイ・プロモーション(自治体宣伝戦略)」が必要だと思いがいかがか。

高薄町長

本町はとても魅力のある町だと言われているが、

観光面が弱いので重点的にやっていきたい。都市圏で開催する北海道フェアへの参加、ふるさと納税の推進、東京にある北海道のアテナシヨップの活用など、ふるさと回帰や移住定住促進事業を通じて進めていきたい。

道の駅設置構想

高橋政悦 議員

現在、十勝管内では11町村14か所の道の駅が設置されているが、国道2本、日勝峠、高速道路のインターチェンジを有する本町には設置されていない。

そこで町長には、町民の間で広がっている、アストロポウル跡地への商業施設進出に併設して道の駅ができるとの噂の真偽および構想としてどのような形態が理想か、財源として見込めるものは

あるか、四季塾の提言発表で出された牛の駅とのシヨイントベンチャー(提携)の可能性も含めて伺う。

高薄町長

アストロポウル跡地には大型商業施設2店が計画されており、併設して道の駅をつくる考えはない。

構想として、どんな形態の道の駅が良いのか考えが至っていない。できれば出資者を募り、町が支援する方法が望ましい。財源は公設の場合、総合整備事業を含めた起債で資金調達できる。

牛の駅との提携も含め、既存の道の駅から脱しないと魅力あるものにはできない。

町道の改修

佐藤幸一 議員

本町は早くから道路の舗装整備に取り組んでき

た。その結果、産業の振興や救急時における緊急車両の走行など、町民生活の向上に果たしてきた役割は大きい。

しかし、古いところは舗装整備から40年以上が経過しており、交通量の増加からか、道路の損傷箇所も多く、一日も早い対策が求められる。

①町道の現状に対する町長の認識を伺う。

②町道の改修計画を策定し、年次的に改修する考えはないか伺う。

高薄町長

①町道は昭和48年頃から急速に整備が進み、その後は補修を繰り返している。傷みが激しい状況になってきているのは事実であるが、財源的に大きな改良・補修ができない状況であり、緊急度の高いものから整備してきている。

②総合計画に盛り込んでおり計画的に進めている。本年度は主要幹線道路の路面調査を行い、調査・